

研究テーマ	〔Ⅱ 想い（発想・想像・構想）を広げ、深めること〕 想いを形にするための表現の手立ての工夫 － 「イメージを形にする・構想プリント」の実践を通して －
-------	---

つくばみらい市谷和原中学校 教諭 椎名加代子

1 研究テーマについて

美術の創作活動の中で原点となるのは「自分の想いを形にすること」だと考えている。指導要録にも『感じ取ったことや考えたことなどを自分の感覚で自由に表現する活動は、自己を確認したり、新たな自分を発見したりすることでもある。特に自己の内面を見つめ、価値観を構築していく思春期の中学生にとって重要な学習である。』と位置づけられている。絵を描く、ものを作る活動の始まりは「作者の想いや考え」である。自分の考えを作品に表していくために必要なことは何であるのかを考えた時、生徒にとって一番重要なのは形を創れることである。しかし、それ以前に自分が感じ取ったこと、表現したいことを知る（自覚する）ことが必要である。このことは、自分なりのイメージを形にしていく活動の中で重要なことであると考えられる。そして、イメージを具現化するためには自分の想いをことばで起こし、具体的なイメージをもつことが創作活動・表現へのステップと考える。

「ことば」は、書くことで自分の考えを肯定することができる。自分が感じたこと、想ったことを伝達するためのことばと向かい合い、考えを深めていく活動を行う。その手段のひとつとして自分の表現したいことをまとめる「構想プリント」を用い、ことばとさまざまな用具や技法で、イメージを形として表現する能力を育てたいと考えた。

2 実践例：①（平成22年度の取り組み）

1 題材名 合唱曲のイメージ画（想いを形にしよう）

2 目標

- 「合唱曲」を聞いて、どのような場面を表現するか、自らの体験や想いを重ねながら意欲的に取り組む。 (関心・意欲)
- 曲のイメージを画面に取り入れるために試行錯誤し、個性的な構想を練る。 (発想・構想)
- 使用する用具、技法などの使い方を工夫して作品の内容を深める。 (創造・技能)
- 作品制作の過程で表現内容を納得のいくまで追求したことを確認する。 (鑑賞)

3 指導にあたって

(1) 題材観

イメージ画は、自分の想いや感じたことを色や形で表現する心象表現活動である。さまざまな道具を使い、表現技法を工夫して自由自在な世界を創り出す楽しみを体験できる。この活動を通して、基礎的技能や用具の知識と活用の仕方を身に付けさせるとともに、文化祭に展示し互いの作品を鑑賞することで、自他の作品の良さや思いをくみ取ることをねらいとする。

(2) 生徒観（男16名 女13名 計29名）

〈事前調査結果〉 (調査人数28名 調査日 平成22年9月14日)

「描くこと」は好きですか。		
・好き … 18名	・苦手 … 10名	
描き方で得意、または好き、だと思うのはどの表現方法ですか。(複数可)		
・スケッチ画 … 8名	・写実画 … 6名	・空想画 … 18名
・鉛筆画 … 8名	・色鉛筆画 … 25名	・水彩絵の具 … 13名
・アクリルガッシュ … 18名	・ペン … 4名	・その他 … 2名
「自分の想いを形にする」活動は得意な方だと思いますか。		
・思う … 6名	・まあまあ思う … 14名	・思わない … 8名

生徒たちの美術環境において、マンガやイラストなどの影響は大きく、表現方法の情報は豊富であり、作品を模写することにかけてはどの生徒も意欲的に取り組むことができる。しかし、「自分の想いは、描きたいものは何か？」と尋ねると戸惑う生徒が多い。自己に目覚め、自分自身のことばや考えを深く顧みること（自己内省）を始めるこの時期の生徒たちにとって、自分の世界を自在に表現できるイメージ画は自己内省のための最適な取り組みであると考えた。

(3) 指導観

美術の表現活動は「自分の感じたものを自由に、素直に表現できる創造の場である」ということを理解させたい。「上手に創らなければ（描かなければ）ならない」という観念から離れ、自分の思いのままに創作することの楽しさを体感させたい。自らが創りあげたもので身の周りを飾り、美しさへの感性を伸ばすことで、心豊かな生活を創造していこうとする意欲や態度を育てていくことが大切だと考える。

本校では、文化祭（穂緑祭）にて合唱コンクールが行われる。各クラスで課題曲と自由曲の2曲を披露する。毎年行われることであり、生徒たちも意欲的に取り組む行事のひとつである。歌を歌うという活動も表現活動のひとつの方法である。そこで、この合唱と美術の表現活動とを組み合わせることはできないかと考えた。歌の表現で重要な音（声）の強弱、抑揚を決めるのは感情である。感情を込めるためには作品を自分なりに理解する必要がある。この部分での取り組みを美術の制作に取り入れたのが「合唱曲のイメージ画」である。曲や歌詞を聞いてイメージしたことを色や形で表現する創造力の育成を課題として設定した。

4 学習計画（8時間扱い）

*本時は○数字

時 次	数 時	学習内容及び活動	評 価 規 準	評 価 の 観 点			
				関	発	技	鑑
1	0.5	課題把握 作品を鑑賞し、制作の意義について知る。	課題の内容を理解し、活動計画を立てることができる。	◎			○
2	1	創作活動(構想プリント) ・スケッチ	イメージした内容を、ことばと形で描くことができる。		◎	○	
	②	・構成	形を組み合わせる画面を作ることができる。		◎	○	
	3	・色彩計画	色の意味や効果を考えて配色することができる。		◎	○	
3	1	制作活動(ケント紙) ・下描き 構想プリントの原案をケント紙に清書する。	構想プリントを利用しながら構成を描くことができる。		○	◎	
	2	・本描き	絵の具や技法の使い方を工夫し、表現することができる。		○	◎	
	3	彩色し仕上げる。					
4	1	鑑賞	お互いの作品の良さを認め、鑑賞カードにまとめることができる。	◎			◎
5	0.5	自己評価	自分の活動を振り返り、今後の課題をまとめることができる。				◎

5 本時の学習

(1) 目標

曲や歌詞から得た印象を描き、自分が伝えたい内容を組み合わせる構成することができる。

(2) テーマに迫る手だて

曲を聴いて表現するイメージ画は、描き方にこだわらずに自由な雰囲気の中で描くことができる。また、空想画を描くことはその時々感情や強い印象を描くことであり、型の固定観念にとらわれることなく自らが感じたことを思うままに表現することができる。よって、構想プリントを自らのイメージを形にしていく活動の手立てとして組み合わせることで、多様なものの見方・考え方を体感できると考えた。

(3) 準備・資料

教科書 資料 構想プリント 参考作品 色鉛筆 水彩色鉛筆

(4) 展開

□工夫した手だて

◎評価

学習内容及び活動	指導・支援上の留意点及び評価
<p>1 本時の学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;">構成を考えよう</div> <p>2 スケッチ (イメージ) の確認をする。</p> <p>(1) 表現したい想いを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○写実的な表現 <ul style="list-style-type: none"> ・線で描く ・形で描く ○想像的な表現 <ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に描く ・感覚的に描く <p>(2) 構成を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心に描きたいもの ・伝えたい想い <p>3 後片づけをする。</p> <p>4 本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・制作カードで、前時間の学習活動、各自の反省・改善点を確認する。 □前回、制作カードにまとめた自分の思いを読み返すことで、制作への意欲づけをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞を読み、曲を聞いて自分なりに合唱曲について理解した上で、どんな気持ちで合唱曲を歌いたいか、自分の気持ちを確認することで制作への意欲をもたせる。 ・合唱曲のイメージ画で行う活動は、自由で想像的な表現活動である。型にとらわれず、思いのまま表現することを助言する。 ・描くことを苦手としている生徒には、自分の思いに合う作家の作品を参考にさせ、模写するなど自分にも描けるという達成感を味わわせたい。 ・自己内省の活動は、自分を見つめ、自分の思いに気づくための活動であることを理解させたい。 <p>◎曲や歌詞から得た印象を描き、自分が伝えたい内容を組み合わせて構成することができたか。 (構想プリント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用した道具の片付け、自分の使用した場所の清掃をすることで、公共の場を使う際のマナーを身につけさせたい。 <p>□制作カードに本時の活動状況を記入し、取り組みを振り返ることで次時への目標をもたせる。</p>

6 平成22年度の成果と課題について

(1) 構想プリント

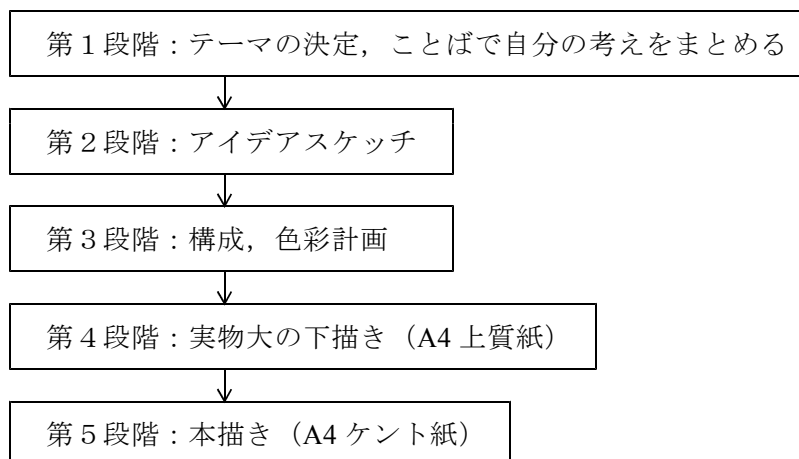
美術の授業の基本は「創造することを楽しむ」を知ることだと考えている。楽しみながら表現方法を試行錯誤し、創れるうれしさを味わう。お互いの作品を鑑賞しながら、感性を認められる喜びを味わう。そのような体験を積み重ねることによって、自分という存在を認められる心情が芽生え、自他共に慈しんで生活できる基盤ができるのではないかと考える。

今回研究テーマとした「構想プリント」は授業時間数の少ない美術の時間の中で、生徒たちのイメージする力を育てるための方策として取り入れた活動である。作品の中に、自由に想いを広げていく楽しさを味わせたい。そのために、生徒一人ひとりとの関わりを大切にしたいと考えている。今後も、個人の能力に配慮しながら支援していきたい。

(2) 成果 (平成22年度 合唱曲のイメージ画作品より)

構想プリントを使った取り組み (添付資料1)

1 活動の手順



2 制作過程



- ①ことばからアイデアスケッチへ
- ・描きたいと思うイメージを描く。
(花と人を描きたい。)
 - ・自分のイメージについて、ことばで書くことはできた。
 - ・人物を描くことを苦手としている。そのため、人や花と認識できる程度の抽象的な描き方になった。
 - ・花だからピンク。人は影だから黒。具体的な形が取れないために、色のイメージをもつことができない。

②構成の見直し

- ・花をスケッチし、花言葉を調べることで、花を描く意味や人物の気持ちなどを考えられるようになった。(花の色の変化)
- ・具体的なイメージをことばでまとめられるようになった。このあたりから人物に動きは出てきた。だが、苦手意識が強く、抽象的な形から離れることができない。



③実物大の下描き (A4 上質紙)

- ・スケッチの結果、人物が具体的になった。
- ・背景の表現にも変化が見られる。黒にするか、白にするかの検討のあとが見られた。
- ・背景の彩色方法にも工夫が見られた。(線の使い方)



④合唱曲「旅立ちの時」完成作品 (A4 ケント紙)



- ・人物スケッチを行うことで、人の形の見直しを行い、イメージをはっきりと形にすることができた。
- ・中心になる絵柄が決まったことで、表現したいことの整理ができ、背景の描き方が変わった。
- ・最終的には、花びらの枚数にも意味を持たせて描くことができた。
- ・作品へことばを添えることで、自分の想いをより深く伝えることができた。

【考察】

発想から構成、彩色までの全ての行程を1枚の構想プリントにまとめることで、自らの想いの変換を確認することができた。

ことばと絵で考えを確認していく「構想プリント」を使った活動は、イメージ活動を深めるうえで有効な方法であったと考える。

実践例：②（平成23年度の取り組み）

1 題材名 谷和原中のマスコットをつくろう

2 題材観

生徒たちの周りにはご当地キャラやマンガの登場人物などさまざまなマスコット商品がある。生徒たち自身もオリジナルキャラクターを作り出すことに興味をもっている。そこで、自分の学校のマスコットキャラクターをデザインし、立体作品にする活動を通して、対象を多角的に見る目を育てたいと考えた。立体にする方法を考え、材料の組み合わせを工夫するために対象をいろいろな角度から観察し、形を表現する力が身に付くことをねらいとした。

3 指導観

昨年度行った合唱曲のイメージを描く自己内省の活動を通して、生徒たちは感じたり考えたりした自分の想いを頭の中で映像化し、ことばで書き、具体的な形を描くことで作品として具現化することを体験した。しかし、イメージを形にする表現方法は平面作品だけではない。平面に描いた作品が立体となった時、作品は現実味を増しより身近なものとなる。そこで本年度は「平面のデザインを立体にする」という活動に取り組み、形にしていく楽しさを体感させ、表現の可能性を広げたいと考えた。

4 構想と作品

(1) 構想プリント（2作品の制作過程）

第1段階 アイデアスケッチ

①



②



第2段階 立体にした後の使用方法や目的（添付資料②）

①



②



(2) 完成作品

名称：谷和原応援団長（材料：紙粘土）

①



・作者のコメント

この貯金箱はお金を入れると取り出せない。
いっぱい貯まるまで頑張ろう。

【考察】

作品を制作していく過程で、完成した作品をどう扱いたいのか、という会話が聞かれるようになった。マスコットとして商品化し、売り出すためには何が必要か話し合うようになり、最終的には商品化した際の大きさや使用目的まで考え、仕上げるに至った。

平面から立体にすることで作品がより現実的なものとなり、この活動を通して生徒の視点が広がりを見せたことへの手応えを感じた。この後、実際に販売へつなげることができれば、創作から生産への喜びとなり、生活の中に生かせる美術として、作品への創作意欲が深まるのではないかと考える。

名称：谷和原マン！

(材料：針金、布、紙、ビーズ)

②



・作者のコメント

学習机や仕事場など、見えるところに置いて欲しい。勉強も仕事もはかどるはずです。

3 成果と課題（平成22・23年度の活動を通して）

(1) 構想プリントについて

「構想プリント」を使い始めたのは数年前にさかのぼる。イメージ画の制作手順を例に取れば、作品を制作する過程で生徒たちはいきなり構成に入り、「描くこと」で満足してしまう傾向がある。自分の想いを描く伝えることについて、「自分なりの表現方法を考えさせる手立てはないものか。」と思案した結果、「書くこと」を目的として使用を始めたプリントである。自分の想いや考えをことばでまとめていくことで、自分の描きたい世界が見えてくる。制作の柱が見つかり、そのあとの絵の構成や色彩計画の内容も「なんとなくこんな絵」から「自分の伝えたいこと」に変化するということが分かった。ことばにすることで、描きたいことが明確になり、そのあとの活動もスムーズに進められるようになったのである。今回の「想いを形にするための表現の手立ての工夫」という研究テーマは、自分にとって指導の根底を成すものである。

テーマについてでも述べたが、創作活動の原点となるのは「自分の想いを形にすること」だと考えている。これを作品として実現させるには、自分が何を感じ、どんなことを伝えたいのかを自覚することが大切である。自らのことを振り返る、その手立てのひとつとしての「構想プリント」の活用を今後も充実させていきたい。

(2) 今後の課題

自分が表現したいことは何なのかを意識させることは、制作活動の中で重要なことだと考える。何かを描く活動も、何を描きたいかが認識できているか、いないかでその後の制作に大きな影響を与える。美術の作品制作の中での言語活動は、自分の感じたこと、自分なりのイメージを形にしていくための手立てとして充実させていきたい。また、今後も「書くこと」「描くこと」の指導を通して、自己表現の幅を広げていきたい。